



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173600204		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホームふれ愛の郷(菜の花)		
所在地	埼玉県加須市新川通181-1		
自己評価作成日	令和6年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方の個別支援として、特に力を入れている取り組みは、外出支援である。毎年継続している取り組みで、施設周辺の散歩や買い物、法人内のデイサービスとの合同イベントの参加や個別での外出を行い、個別の外出支援を実施している。入居者様の日頃何気ない会話から、それぞれのニーズを把握し、希望が叶える事ができるよう配慮する事を重視して実施へと結び付けている。また、地域イベントへの参加を積極的に行っており楽しみの一つとなっている。施設内の庭にて園芸活動を行っており、畑で収穫した野菜を入居者の方に調理して頂く機会を設けている。作る楽しみと喜びを感じて頂ける機会となっている。新型コロナウイルス感染症予防の対策として、外出支援の夕食は中止となっている為、施設内のクッキングや出前イベントの開催の頻度を多くし、満足度が低下しないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が入職時に法人理念・接遇マナー・職員心得等についての研修機会があり、入職後も法人理念を意識できるよう部署の会議時に唱和する事で意識できている。	法人の基本方針・行動指針に基づき、利用者一人ひとりの違いを理解し、今までの生活習慣や生活リズムを尊重した支援が行われている。菜の花会議やミーティングの機会に唱和をして職員の意識統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策を講じながら、地域のイベントは行う事ができている。地域の中の一員として楽しみを感じている。	法人のデイサービスと合同でボランティアのゴスペルコンサートが開かれたり、幼稚園児との交流を深められるほか、事業所敷地内に移動スペースが訪れ、地域の方々と一緒に買い物を楽しまれるなど、地域との積極的な交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のオレンジ会議(認知症会議)や認知症カフェにて認知症の理解等の相談・普及活動を実施できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催をし、会議内ではサービスの報告や話し合いの場を設けている。様々な意見を頂戴し事業所内で取り入れられる様に報告・実践をしている。	運営推進会議は、事業所からの事故報告、感染対策等の取り組み報告が行われ、参加者からの地域情報提供などを基に意見交換が行われている。コロナ禍以降施設内に立ち入りができなかったこともあり、参加メンバーからの要望で施設内を見学していただく機会とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、市の担当者の方が出席頂き、事業所の実績を報告し、市の担当者からの意見を頂いている。また、オレンジ会議でも連携を図らせて頂いている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、意見やアドバイスをいただいている。また、地域密着連絡協議会に参加し、事業所の紹介や地域の困りごとなど意見交換するほか、地域の文化祭に利用者共同作品を展示したり、アルツハイマー月間の催事に協力するなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束マニュアルに則り、禁止事項を行わず不適切ケアがないように意識している。また、夜間以外の玄関の施錠をできる限り行わないようにしている。	身体拘束・虐待防止については、年2回の法定研修、運営推進会議と兼ねた身体拘束廃止委員会が開催されている。夕方になると不穏になり、夜間徘徊をするような状況でも行動を制限したりせず、本人が納得できるような対応に務められ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の内部研修で年2回の虐待防止研修に参加をし学ぶ機会となっている。また、入居者の方に痣があった場合にはケース記録へ記載し申し送りを徹底している。ご家族への報告も実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学び理解に努め、必要時に説明や制度の利用がスムーズに図れるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族とは話し合いやご説明をさせて頂き、契約を締結させて頂いている。また、契約の解約についても話し合いを重ねた上で、解約の理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは利用に関する満足度をご確認できるアンケートを実施している。また、担当者会議や面会時にご家族より意見や要望を聞き入れ、運営に反映している。	年1回顧客満足度アンケートが実施され、フィードバックされている。利用者担当職員が家族にまめに連絡を取り、意見が言いやすい雰囲気作りに努められている。病状変化時など将来に対する不安の声が聴かれ、安心できるような説明が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へは意識調査アンケートを実施している。また、定期的に個別面談を行い施設の取り組みに関する意見や要望・提案を聞き入れ、運営に反映させている。	法人主催のCSアンケートを集計してフィードバックされるほか、定期的な個別面談が行われ、体調面や勤務場所の移動希望など聴き取られている。日頃から業務の中での気づきなどは管理者が意見をしっかりと聞き取り反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、職員の適正について評価を行うと共に、職員から現在の職場に対する要望等を聴いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修を実施している。また、外部研修への参加を実施し、職員のスキルアップに務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所連絡会において、他事業所参加者との交流に機会を図り、情報の共有や交流を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳細なアセスメントをとり、ご本人ができる事を把握し、より良い関係づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にお話を伺う場を設けて、ご家族の困りごとを確認し、より良い関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族のニーズを見極めるよう努めている。他のサービスの情報提供に留まっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、役割活動を共に行なう等、職員・ご利用者が相互に支え合うような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会を促し、ご家族にご利用者の日頃の様子をお伝えしている。さらにはサービス担当者会議を通じて情報共有を行い、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンとなるご家族だけではなく、ご利用者の関わりのある方への面会も喜んでお受けしている。また、馴染みの場所等への関係づくりはできないている。	友人からの電話を取り次いだり、入居前に利用していたデイサービスで親しくしていた方との付き合いが継続できるよう支援をされている。昔懐かしの歌を録画で観ていただいたり、音楽レクでピアノに合わせて一緒に歌うなど、昔を懐かしく思い出していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間でトラブルにならないよう、ご利用者間の関係性に注意をし、日常生活が送れる様に支援している。職員が入居者の間を取り持つ事で支援している状況もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	使用終了後も、法人内のサービスでフォローを行い、情報共有等の相談に対する援助も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、職員全員で考え活用する事で、使用者の思いや要望に沿った支援を行っている。	家族や入居前の担当ケアマネからの情報、「私の姿と気持ちシート」、「24時間生活変化シート」などをともに職員間で共有されている。1対1の機会をとらえて話を聞いたり、新しく入居された利用者には日頃の関わりの中から、どのような思いなのか、どう暮らしたいのか等把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を基に、自宅で過ごしていたような生活が継続できるよう支援している。また、サービス担当者会議や面会時にて、ご利用者の昔の生活状況をご家族にお聴きし参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の様子を職員間で共有できるよう、日々の記録や会議時に報告を行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員(計画作成担当者)が作成したケアプランを担当職員・管理者が確認を行っている。担当者会議はご家族へお声掛けし、事業所にて実施し共有できている。それぞれの意見や状況に即した経過を作成できている。	利用者担当職員が、利用者、家族の意見、要望を聴き取り、職員皆で意見を出し合いモニタリングが行われている。利用者からの「何がしたいか」を計画に盛り込み、現状維持もしくは少しのプラスができることを目標とした介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録において、ご利用者の様子及び職員の対応方法を具体的に記入する事で、情報を共有できている。またケアプラン実施表を活用し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・外出支援等・他の事業所の協力等、可能な限りご利用者・ご家族のご要望に応じて柔軟に支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の会議等で近隣の社会資源の情報収集を行い、一人ひとりにあつた生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則、ご家族へ依頼を行っているが、ご家族の都合にて往診対応の方々もおられる。受診・往診時には介護サマリを作成・お渡しする事で、医療連携が図れている。また、利用者の状況によっては受診同行を実施し、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時に希望のかかりつけ医を選択していただき、家族付き添いの受診の際は介護サマリーを用いて連携が図られている。協力医療機関は夜間専用ダイヤルが設けられ、夜間の急な状態変化にも迅速に対応することができ、安心できる医療体制を整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師が勤務しておらず、日々の変化に関してはご家族へ報告をし医療機関に確認をして頂いている。また、往診対応の方は24時間通話可能な連絡先にて確認を行っている。日中に関しては、併設の特別養護老人ホームの看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時には病院の感染対策の指示に従い、可能な限り面会へ出向き、入院時の状況や医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人として、重度化及びターミナル指針は作成されている。事業所として契約前に重度化により退所に至る状況も説明をしている。その際、併設している特別養護老人ホームと連携をし、フォローに務めている。	入居時に重度化や終末期について事業所の方針を説明し、納得のうえ入居していただいている。医療行為が必要となったり、一般浴の入浴ができなくなるなどの状態変化時に話し合い、医療機関や併設の特別養護老人ホームなどに繋げる支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った対応ができるようシミュレーションを実施したり、内部研修や救命講習・AED講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、年3回の訓練を行っている。水害訓練は市の指針により、法人内の別施設に避難訓練を行っている。	火災、地震、水害のほか夜間想定も含めて年3回の訓練が行われ、初期消火、非常用持ち出し品や誰が持ち出すのかなど確認されている。また、非常時の訓練として、法人内の他の施設まで避難訓練を実施し、避難先のハード面に課題があることを確認されている。	年3回の防災訓練が行われ、災害対策には十分に組み込まれております。避難訓練を行う中で、課題として確認された項目について、継続して整備していくことに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して言葉遣いや接遇マナーに気を付けるように職員へ呼びかけている。また、接遇マナーチェックを定期的に行っている。	個別のケアに特化した理念が掲げられ、利用者それぞれの性格や個性を理解しながら一人ひとりの人格を尊重した支援が行われている。居室入室時にはドアをノックしたり、排泄や入浴時の羞恥心への配慮、慣れ合いにならない言葉遣いに気を付けるなど、十分に注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者を支援する際、その都度思いを確認しながらサービス提供を行っている。センター方式の活用や個々を主役とした馴染みの味付けでの調理イベントを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個性のある生活を提供している。ご利用者に否定的な態度がみられる際には無理強いをせず、ご利用者のペースに沿った援助を行っている。センター方式を活用して、統一したケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護を要する利用者は、起床時に髪を整える等のエレガンスを行っている。要望があれば、化粧水・保湿クリームの塗布(声掛け)を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを行って頂き、準備をして頂いた食事を職員と共に召し上がって頂いている。片付けにおいても、一緒に行うことができている。また、畑で収穫した野菜を使い、調理イベントを実施している。	昼食は肉、魚のセレクトメニューで、好きな物を選択していただいたり、誕生日のケーキやおやつ作り、うな重やお寿司のテイクアウトなど、食べる楽しみを工夫されている。利用者がランチョンマットを準備したり、洗い物など共に行い、楽しく食事ができるよう雰囲気作りを大切にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分補給を記録に残すことで、ご利用者の変化に気づけるように務めている。食事量の少ない利用者は施設の管理栄養士や往診医・歯科医師に相談をし個別の対応方法を検討・実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・朝食後・夕食後に口腔ケアの声掛けを実施している。訪問歯科(申込者のみ)にて診て頂き、適切なケア方法で口腔ケア支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。必要に応じてパット等の使用検討を行い、適切な対応に務めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本として声かけが行われ、日中は布パンツで過ごし、夜間はトイレでの排泄や睡眠を優先するなど個別に対応されている。入居後24時間シートで排泄状況を把握しながら時間帯で排泄用品を変えるなど、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取量の確保や日常生活で身体を動かす機会(散歩や体操等)をつくる様に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の拒否がみられる際には、無理強いをせず時間を変更したり、翌日に変更する等の個々の希望に合わせて実施している。室温にも注意していく。	脱衣所の室温管理が行われ、ヒートショックへの配慮がなされている。湯温や浴槽に浸かる時間は希望を考慮し、拒否のある方には無理強いをせず納得して入浴していただくなど、個々に添った支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に疲れがみられる利用者は、自室での休養を促している。夜間も安眠できるよう、日中に適度な外出や運動を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『薬の知識』のファイルやインターネット検索も用いて、利用者の方が服薬をする薬の種類や作用について、いつでも観覧できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、利用者の馴染みの習慣や好みを把握し実施している。利用者の楽しみや自信へと繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を講じていきながら外出を再開しているが、個別の外出とまではできていない状況です。利用者の方の要望を把握しており、感染対策を行い個別外出を検討していく。	近くの河川の堤防まで散歩に出かけたり、庭にパラソルを広げて外気浴をしたり、職員と一緒に併設するデイサービスの厨房まで食事を取りに行くなど、ちょっとした機会をとらえて外出ができるよう支援されている。道の駅やプラネタリウム、周辺の名所を尋ねるなど企画をして楽しんでいただいている。	

自己評価および外部評価結果

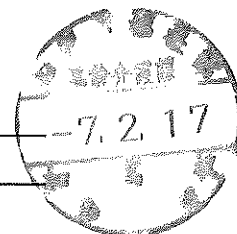
[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーやイベントの買い物の際に外出をし、お金を使用する機会を確保している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	了解を得ているご家族に対しては、電話をお繋ぎし、お電話での通話ができる環境を整備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や施設内は季節に合わせた装飾を施している。また、居室入口にご利用者の方の思い出の品を飾るスペースを設けており、馴染みのある空間を演出している。	吹き抜けで解放感のあるリビングは、季節感のある装飾や利用者の作品、行事の写真などが飾られ、ガスヒーターで足元まで温まれるよう配慮がなされている。利用者はテレビを観たり、おしゃべりを楽しんだり、そろばんで計算するなど、それぞれが思いおもいに過ごす姿が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓越しに面した廊下にはベンチが設けてあり、利用者同士が腰を掛け談笑する姿がみられる。食堂の隣には掘りごたつのある和室があり、利用者の要望に応じて使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や馴染みの家具等を設置する事で、安心した生活が送れるように配慮している。	居室の入り口の思い出コーナーには思い出の写真や品々が飾られ、暖簾をかけてプライバシーへ配慮がなされている。自宅で使い慣れた寝具やタンス、鏡台などが持ち込まれ、安全面に配慮した配置を工夫し、居心地よく過ごせる居室づくりの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室の入口には表札と利用者の思い出の品を飾るケースを設置し、自身の居室がわかるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームふれ愛の郷(菜の花)

作成日: 令和 7 年 2 月 14 日



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年3回の防火訓練が行われ、災害対策には十分に組み込まれております。一級河川に近い立地や高齢の利用者を預かる事業所として、最もリスク高い水害対策を、継続して整備していく事に期待します。(前回の目標達成計画において、以降2年間に達成できているが、重要項目の為、継続課題とする。)	水害発生を想定した避難訓練を実施し、様々な自然災害に対する職員の対応力を身につける。また、法人が作成したBCPマニュアルに沿った行動を全職員が行えるようにする。(課題同様、重要項目の為、継続目標とする)	・継続した避難訓練の実施 ・非常持出品リスト整備・確認 ・具体的な搬出方法と役割分担の明確化 ・想定を変えた水害避難訓練の実施 (課題同様、重要事項の為、取り組み内容は継続とする)	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。